

会議録

会議の名称	第3回 西東京市地域コミュニティ検討委員会
開催日時	平成25年9月26日(木曜日)午後6時30分～8時30分
開催場所	西東京市役所 田無庁舎 5階502会議室
出席者	委員：伊村委員(委員長)、伊藤委員(副委員長)、工藤委員、栗山委員、幸内委員、菅野委員、鶴野委員、土谷委員、土方委員、井手委員、志村委員 事務局：協働コミュニティ課長、協働コミュニティ課市民活動推進係長、協働コミュニティ課市民活動推進係主事、企画政策課、危機管理室、生活福祉課、高齢者支援課、教育指導課、株式会社エックス都市研究所
報告事項	1 自治会・町内会懇談会の実施結果 2 モデル事業「防災訓練との連携事業」の実施結果 3 モデル事業「迷惑電話チェッカーを活用した実証実験」の実施状況 4 自治会・町内会現状調査(平成25年度)
議題	1 (仮称)地域協議体のモデル地区(南部地区)の立ち上げについて 2 モデル地区(南部地区)において実施するモデル事業について 3 自治会・町内会 個人情報保護の手引き(案)について
その他	1 次回検討委員会開催日について
会議資料の名称	資料1-1 自治会・町内会懇談会の実施結果 資料1-2 「自治会・町内会懇談会」アンケート結果 資料2 モデル事業「防災訓練との連携事業」の実施結果 資料3-1 支援施策の検討プロセス(案) 資料3-2 (仮称)地域協議体の目指すべき目標像(案) 資料3-3 モデル地区(南部地区)のスケジュール(案) 資料3-4 地域にあるコミュニティに関わる主な組織表 資料3-5 (仮称)地域協議体モデル地区(南部地区)の立ち上げ方について(案) 資料4 モデル地区(南部地区)において実施するモデル事業について(案) 資料5 西東京市個人情報保護の手引き(案) 迷惑電話チェッカーモニター募集チラシ
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>事務局：</p> <p>第3回西東京市地域コミュニティ検討委員会を開会する。まず、本日の議題を確認させていただく。</p> <p>議題の確認</p> <p>次に、資料の確認をさせていただく。</p> <p>会議資料の確認</p>	

2 報告事項

委員長：

事務局より報告事項についての説明をお願いしたい。

報告事項（1）自治会・町内会懇談会の実施結果

事務局：

7月27日および8月3日の二日に分けて、自治会・町内会懇談会を実施した。この懇談会は、自治会・町内会同士の横のつながり、自治会・町内会と関係機関とのつながり作りを目的に実施した。

懇談会では、加入者の年齢層、会費の金額、会の課題について話し合われた。後日、各自治会・町内会で個別に懇談したいというところもあり、連絡先の交換等を行っていた。

委員長：

事務局の説明について、ご意見はあるか。

委員

当日、皆さん期待を持って来られたと思う。ただ、話し合う時間が少なかったと感じる。どこかでまたお会いしましょうという話も出ていた。

皆さん課題を抱えていることがわかった。ほかの自治会・町内会では課題解決に向けどのようなことを行っていくのかを聞いて、洗い出しを行うのに時間が必要だと感じた。

委員長：

ほかにご意見はあるか。

委員：

地域ごとにどの程度の参加率であったか。資料からは分母がわからない。

事務局：

振り返すと南部地域がやや多い結果となった。

委員：

南部では参加者を5グループに分けているが、地域性を踏まえてグループ分けしたのか。

事務局：

町名別でグループ分けを行った。

委員：

参加者への呼びかけはどのように行ったのか。

事務局：

呼びかけは、協働コミュニティ課が把握している全自治会・町内会に郵送で連絡を行った。

委員：

参加されなかった自治会・町内会からは何らかの反応があったのか。

事務局：

特に反応はなかった。今回の懇談会は、市としても初めての取り組みであった。もう少しアナウンスすれば、参加が増えたかもしれない。

委員：

地域において、たとえば隣の自治会・町内会に呼びかけを行っていくほうが良いと思う。市からの呼びかけよりはそうした呼びかけのほうがよいのではないかと思う。

副委員長：

7月27日の会に参加させていただいた。地域のネットワークづくりに、話し合いが非常に効果的であったと感じた。自治会・町内会長同士が集まっての話し合いは初めてだということなので、情報交換に役に立ったのではないかと感じた。今後、コンスタントにやっていけるといいのではないかと感じている。

委員長：

いこいな地域いーな通信に、懇談会の次回以降の予定を載せておいたり、結果のフィードバックをしていくことが重要だと思う。

報告事項（2）モデル事業「防災訓練との連携事業」の実施結果

○事務局：

8月25日に西東京市総合防災訓練が開催され、連携事業として田無南町3丁目第3アパート自治会、および向栄会の2自治会に参加いただいた。この2自治会は、懇談会に参加していただき、その際にお声掛けかさせていただいた。

訓練の内容は、9時から避難経路を通り、途中歩きながら危険な場所がないかどうか、消火施設や井戸などの確認を行い、向台小学校へ避難するというものである。

委員長：

事務局の説明について、何か意見はないか。

委員：

田無第四中学校も総合防災訓練の会場になっており、訓練を行った。田無第四中学校の避難所開設訓練は、参加者が非常に少なかった。PRが足りなかったのではないかと感じている。

訓練自体はためになったと思う。ただ、できれば、訓練のときに見るだけでなく、もう少し見識が深く、突っ込んだ説明を含めたものがあるといいと感じた。

委員長：

ほかに意見はあるか。集合住宅と戸建て住宅では何らかの違いがあるのか。

事務局：

都営住宅には高齢者が多いため、事前参加予定者が、雨で参加しないということがあった。

委員長：

各自治会・町内会の規模はどの程度か。

事務局：

向栄会は、125世帯の比較的規模の大きい自治会・町内会である。第3アパート自治会も都営住宅で3棟ほどの規模の世帯である。

委員：

災害は天候を選ばない。雨の中で防災訓練を行う価値はあると思う。

報告事項(3) モデル事業「迷惑電話チェッカーを活用した実証実験」の実施状況

事務局：

西東京市では、振り込め詐欺による被害が多いということで、迷惑電話を防止するための機械を無料で貸与するモニターを募集することにし、防犯活動を進めてきた。

消費者庁のモデル事業に応じて、警察などとの協力のもと、当初、高齢者の市民の方を対象にモニターを募集した。パンフレットを配布するなど、市内の組織を通じて、PR活動にご協力いただいたが、応募が少なかつたため、すべての年齢の方を対象に再度募集を行った。

現在、約120名の方にモニターになっていただいている。募集期間はあと1週間である。次回の委員会で詳細報告をさせていただく。

自治会・町内会懇談会においても警察がPRを行った。関係団体に様々なご協力をいただいた。

委員長：

事務局の説明について、何か意見はないか。

委員：

説明会に参加したが、その内容について回覧板で地域に回した。ところが一人も応募する方が現れなかった。その理由は、日頃から対応をしっかりとっておけば機械はいらないということだそうである。

また、1年間は無料だが、その後有料になるからやらないという考えもあるかもしれない。

委員長：

物売りの電話は大学にもよくかかってくる。このあたりが住宅街だから手当たり次第に電話をかけてくるものだと思う。

報告事項（4）自治会・町内会現状調査

事務局：

前回の資料から変更がある。自治会・町内会組織が 225 組織で、6 組織減少した。内訳は、8 組織の減少、2 組織増加というかたちである。

北東部が 40 組織、西部が 62 組織、中部が 46 組織、南部が 77 組織である。

委員長：

減った理由は何か。

事務局：

活動をあまりしていないことから、会の中で辞めたいという話が持ち上がったようである。会として設立していなくても、顔なじみで改めて組織化する必要がないと感じているようである。

委員：

自治会・町内会の規約があるかどうか重要だと思う。多くの自治会・町内会では輪番制と思われる。自治会・町内会の活性化には、輪番制を廃止したほうがよい。また、規約を作って何を目的にやっているのかを掲げないとだめなのではないかと思う。目標や目的が何かなども含め、今後自治会・町内会調査を実施してもらいたい。

委員長：

2 年前、全く把握していないところからはじまって、ここまで把握できた。今後は、自治会・町内会がないところに作っていってもらえるなどの広報活動を引き続きやってもらえるといいのではないかと思います。

白地地域については、たとえば市民祭りなどで自治会・町内会をつくるにはどうしたらよいかを PR する工夫ができるとよいのではないかと。

次の議題に移りたい。

議題（1）（仮称）地域協議体のモデル地区（南部地区）の立ち上げについて

委員長：

まず、議題（1）について事務局から説明願いたい。

事務局：

資料 3-1、3-2、3-3、3-4、3-5 について説明

委員長：

まずは事務局からの資料説明について交通整理させていただく。資料3-1、2、3については、基本方針で書かれていたネットワーク図について、現状を踏まえて改めて書き直したものと捉えてもらいたい。

現在地域の方に様々なご負担を頂いているので、新たな組織を立ち上げるのは大変なため、整理統合していく形でやっていきたいということを資料では示している。

ただ、理想形の話だけをしていても先に進まないなので、モデル事業という形で進めていこうということで、2段階に分けて進めていくことを事務局では提案している。

地域協議体を作っていくにあたっては、教育、福祉など様々な組織があるので、いったいどんな団体が実際にあるのかを示したものが資料3-4になる。

資料3-4の中からモデル地域で協議体を作っていくのにどうしたらよいか、その理想形を示したものが、資料3-4の黄色い部分である。

第一段階では今年度、南部地域で進めていきたいと考えている。北東部、中部、西部については、来年度以降進めていくという形になる。

ここまでで意見はあるか。

委員：

資料3-4の黄色い部分に示されているメンバーは、今後どの程度増やすつもりか。自治会から1名ずつ出た場合、100名以上出ることになってしまう。

事務局：

1町から1名、5町あるため5名の参加を想定している。どうしても出たいということであれば、それを止めることはない。

委員長：

資料3-123についてディスカッションしたいが、何か意見はあるか。

委員：

子育て教育分野で、保育園は入っていないが、入っていたほうがよいのではないかと。保育園を入れておくと、参加者の幅が広がるのではないかと。地域に若い世代の意見が浸透していないので、この機会に保育園関連も入れてみてもいいのではないかと。

事務局：

入れていく方向で検討したいと思う。

委員：

なお、資料に示されている青少年育成会は、担当課が、子育て支援課ではなく、児童青少年課であるので修正をお願いしたい。

委員長：

ほかに意見はないか。

委員：

モデル事業をやるのに、予算化はされているのか。

事務局：

予算化はされていない。

委員長：

来年度、モデル事業を拡大してやるのか。

事務局：

資料3-1に示したが、自治会・町内会の支援策については頑張っているところである。地域コミュニティ支援施策については、現段階では難しいが、実績ができたところで、財政、企画との調整をしていきたいと考えている。

委員：

予算化されていないと状況でモデル事業ができるのかどうか心配である。

事務局：

自治会・町内会の補助金については別途考えていただきたい。地域コミュニティについて、地域の人たちが自分たちで課題を解決していきたいというやる気や意識の結びつきが大切だと考えている。

現段階で予算立てを行い、そのお金で何かをやってもらおうということは考えていない。

資料3-1の中で活動助成金を示しているが、事務局レベルでは助成金を出したいと考えている。

委員：

地域協議体の構成メンバーに自治会・町内会が絡んでくると思うが、地域コミュニティも自治会・町内会もどちらも活性化するような仕組みが理想形だと思う。

委員長：

理想形は、地域協議体が活性化すれば、自治会・町内会の活性化がいらなくなることだと思う。

委員：

実績のないところに予算はつけられないということだと思う。この事業が成功するには、魅力あるものにしなければならないと思う。

今緊急の課題は、防災だと思う。防災に関連したことをやれば魅力がアップするのではないかと思

う。

事務局：

防災について言えば、これまで行政の対応が縦割りであったが、今、縦割り行政では地域課題を解決できない状況になっている。行政も横のつながりを持って、地域課題の解決をサポートしていこうとしている。この点が、この事業の魅力でもある。

委員長：

地域において面で活動することを促している以上、行政でも面の体制でサポートしなければならないと思う。

委員：

防災活動を進めていく際に、縦割り行政は引っかけりを覚える。

かつてごみ減量化の取り組みを地域で行おうと思ったが、なかなか続けられないことがわかった。そこで防災に関する取り組みを行うことにした。ところが防災にはお金がかかるため、集団回収の奨励金を防災でも使えるようにした。

委員長：

少しディスカッションの方向性を南部地域の具体的な協議体立ち上げについてに変えたいと思う。この部分について何か意見はないか。

委員：

段階を分けて実施することはいいと思う。

メンバーの選出については、1つの町名で1人ということであれば、特定の自治会・町内会を想定していると考えてよいか。懇談会では、19の自治会・町内会が来ていたようであるが、この19の自治会・町内会が5つの町名に分かれているのか教えてほしい。

資料の中で地域課題の話し合いについての項目があるが、社会福祉協議会でも様々な取り組みを行っているが、なかなか1回で解決するのは難しいと感じている。出てきた地域課題をどうしていくのかについて、そのイメージを教えてほしい。

事務局：

自治会・町内会のメンバーについては、懇談会に参加していただいたメンバーからお声かけさせていただくことになると思う。

地域課題の話し合いについては、当然、すぐに何か解決に向かう行動がとれるわけではない。今年度については、顔を合わせるということで終わるのではないかと想定している。

第2段階である来年度については、話し合いの中で出てきた課題の中から、皆さんの中でモデル事業をやってみようという機運が高まればよいと考えている。今後は、状況を見ながら進めていければと考えている。

25年度については、横のつながりを作ることがメインとなると考えている。26年度については、地域の課題の出し合いがメインになると考えている。予算もない状況のため、具体的な知恵を出し合うことに終始するのではないかと想定している。お金がついて地域課題の解決を進めていくのが27年度以降であると考えている。

委員長：

市民のスケジュールはわかるが、行政がいつそれに対応できる面の組織を作るのか。そこも見せておかないといけないのではないかと。第2段階で行政内にそういった組織ができるべきだと思う。

委員：

テーマによっては、自治会・町内会が参加できないものもあると思う。何かテーマを特化しないといけないのではないかと感じている。

委員長：

最終的に部会を立ち上げてもらうなどの対応を図ってもらえればよいのではないかと。資料3-5について、メンバーの雰囲気について、ご意見はないか。

副委員長：

保育園や幼稚園について、呼びかけは可能か。

事務局：

呼びかけは可能である。ただ呼びかけた結果、参加できるかどうかはわからない。

委員：

もうすでに学校単位で避難所の組織運営について会議を開いているので、モデル事業について、ただ見て回るのではなく、避難所のことをやるべきだと思う。

委員長：

次のテーマの話が出たので、次のテーマについて議論を移したいと思う。

議題（2）モデル地区（南部地区）において実施するモデル事業について

資料4について説明

委員長：

モデル事業で何を実施するのかについては、今後詰めていく必要がある。ワークショップのディスカッションの内容でまち歩きの見方が変わる。まち歩きの後のワークショップをどのように考えるのかを

検討していく必要がある。

モデルとして挙げられている南部地域は、一度防災訓練なども実施していることから、ありきたりなものをやるのは難しいのではないかと思います。

事務局：

委員長と事務局で内容については再度精査する必要がある。

委員：

田無第四中学校の校長が、どのように避難所の運営を地域の方に周知していったらいいのかということ悩んでいた。

委員長：

校長先生にヒアリングをしてニーズに見合ったものを実施していくことも必要ではないかと思います。

委員：

学校が何をしたいかではないと思う。行政が指針を出して学校に丸投げされている状況が続いている。学校は基本的に場所を貸すのであって、基本的に行政が主体となってやるべきである。学校が全部やれというのは難しい。

委員：

前回のワークショップについて、行政のお膳立てがしっかりあった。それが今後モデル事業として成立してよいのかという思いはある。集まった方々が考える場ではないとダメなのではないかと思います。

避難所運営協議会についても、地域の方々がシミュレーションを自分たちでしてみようということ話していた。集まった方々が防災についてしたいことを支援することが学校としての役目だと考えている。地域の人が主体的にやっていくような方向にもう少し練る必要があると思う。

委員長：

去年のようなものでは意味がないので、もう少しディスカッションを長くする必要もあるのではないかと。ワークショップだけやってもいいのではないかと思います。

副委員長：

田無第四中学校での訓練について、反省点多かったと聞いている。反省を話し合ってから検証して、モデル事業を始めるという形でもいいのではないかと。

危機管理室：

当日ばたばたしていたが、そうした中で自然発生的にリーダーが出てくるというのがわかった。地区懇談会の延長で考えると、新しい人との出会いが楽しいと感じている人も多くいらっしゃるようである。キーワードとしては「楽しい」が重要なのではないかと考える。楽しいから地域活動の範囲が広が

るのではないかと思います。

今後ワークショップの中で、たとえばアウトドア体験をしてみると参加者の個性がわかると思う。それぞれのスキルがわかってくると思う。またリーダーの適性がわかるなど、知らない人同士がつながるいい機会になるのではないかと。それをワークショップの1回目を実施して、次回以降検証をしながら進めていくというのもあるのではないかと考えている。

事務局：

これまでで体験を踏まえ、モデル事業の内容を精査したいと思う。内容については、委員長・副委員長に一任する形をとらせていただきたい。

議題（3）自治会・町内会 個人情報保護の手引き（案）について

資料5について説明

事務局：

内容についてご意見があれば、後日ご連絡いただければと思う。

4. その他

（1）次回検討委員会開催日について

委員長：

次回の検討委員会は、事務局で調整いただければと思う。